

うるま市 橋梁長寿命化修繕計画 (令和7年度改定)



薮地大橋

令和7年11月



うるま市役所 都市建設部 道路整備課

目 次

1. うるま市の概要	1
2. 長寿命化修繕計画の背景と目的	1
3. 長寿命化修繕計画の対象橋梁	1
4. 長寿命化修繕計画の基本方針	2
5. 事業の効率化・費用の縮減に関する方針	2
6. 健全性の診断	3
7. 管理橋梁の状態及び点検結果について	4
8. 点検結果一覧表	5
9. 修繕優先度の設定	6
10. 修繕優先度一覧	7
11. 事業計画一覧	8

1. うるま市の概要

(1) 気 候

うるま市の気候条件は、亜熱帯海洋性気候で平均気温は概ね23.0℃前後となっています。年間降水量は約2,000mmで6月には梅雨期、9月には台風の襲来等による降雨量の増加がみられます。

その台風の襲来により、海から内陸に運ばれる塩分による塩害を受けやすい自然環境にあります。

(2) 地理的特徴

うるま市は、那覇市から25km、沖縄本島中部の東海岸に位置しており、西に沖縄市、北に恩納村・金武町と接し、東・南に金武湾・中城湾に接している。さらに東南部に伸びる半島部の北方海上、東方海上には有人・無人を含め藪地、平安座、宮城、伊計、浜比嘉、南浮原、浮原、津堅の8つの島々があり、このうち藪地、平安座、宮城、伊計、浜比嘉は半島部と海中道路等によって結ばれています。

うるま市道に架かる橋梁は、具志川地区に全体の60%、石川地区に全体の25%、与那城・勝連地区に全体の15%が建設されています。石川地区においては、南北に高速道路が縦断し、そこを跨ぐ橋梁が5橋建設されています。

2. 長寿命化修繕計画の背景と目的

(1) 背 景

うるま市が管理する橋梁で市道に架かる橋梁は、令和7年現在で81橋（橋長2m以上）で、そのうち15m以上の橋梁は26橋、15m未満の橋梁は55橋となります。

道路は市民生活を支える非常に重要な社会基盤であり、ネットワークが維持されてこそ、その機能が発揮されます。しかしながら、これらの橋梁の大半が老朽化していくなかで、従来の対症療法型の維持管理を続けた場合、橋梁の修繕等に要する維持管理コストが増大するものと考えられます。

(2) 目 的

このような背景から、市民の安全で安心な生活を確保するため、従来の対症療法型の管理から、予防保全型の維持管理へと転換を図ることにより、橋梁の維持管理費の削減を図るとともに、限られた予算の中で効率的かつ効果的に橋梁の維持管理を行い、健全な道路ネットワークを保全することを目的に「橋梁長寿命化修繕計画」を策定しました。

3. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

単位：橋

橋 長	市 道 種 別			合計
	1級	2級	その他	
15m以上	5	3	18	26
15m未満～2m以上	14	5	36	55
合 計	19	8	54	81

4. 長寿命化修繕計画の基本方針

(1) 健全度の把握の基本方針

健全度の把握は、最新版の「道路橋定期点検要領」（国土交通省 道路局）に基づく点検を定期的に実施し、橋梁の損傷状況を踏まえ継続的に健全度の把握を行っていきます。

(2) 日常的な維持管理に関する基本方針

橋梁を良好な状態に保つため、日常的な維持管理としてパトロール等を実施し、橋梁の安全性を確認していきます。

(3) 計画期間及び計画の見直し時期

当該橋梁長寿命化修繕計画の計画期間は令和8年度から令和12年までの5年間とし、5年に1回の定期点検を踏まえて、適宜管理方針・評価の見直しを行います。

5. 事業の効率化・費用の縮減に関する方針

(1) 新技術の活用

令和12年度までに、管理する橋梁のうち1橋で新技術を活用し、従来技術を活用した場合と比較して約200千円のコスト縮減を目指します。

(2) 集約化・撤去

集約化・撤去対象の検討を行った結果、市が指定する緊急輸送道路の重要な路線のほか、集落地に位置しており、隣接する迂回路を通行した場合、徒歩約600m(所要時間：6分)・自動車約1km(所要時間：2分)迂回することとなり、社会活動等に影響を与える為、集約化・撤去を行うことが困難である。

周辺の状況や施設の利用状況を踏まえて、再度検討を行う。

6. 健全性の診断

道路橋定期点検要領では、今後管理者が執るべき対策を判断するための総合的な評価である「健全性の診断」を行うこととなっており、この診断は、各損傷に対して維持・補修等の計画を検討する上で必要な評価となります。

表－1 健全性の診断における判定区分

区分		状 態
I	健全	・ 損傷が認められないか、損傷があり補修の必要があるものの、損傷の原因、規模が明確であり、直ちに補修するほどの緊急性はなく、放置しても少なくとも次回の定期点検まで（＝5年程度以内）に構造物の安全性が著しく損なわれることはない判断できる状態。
II	予防保全段階	・ 損傷が進行しており、耐久性確保（予防保全）の観点から修繕計画に合わせながら適切な時期に補修等される必要があると判断できる状態。なお、橋梁構造の安全性の観点からは、直ちに補修するほどの緊急性はないもの。
III	早期措置段階	・ 損傷が相当程度進行し、当該部位、部材の機能や安全性の低下が著しく、橋梁構造の安全性の観点から劣化の状態や進行状況に合わせ早期（＝5年程度以内）に補修等される必要があると判断できる状態。
IV	緊急措置段階	・ 構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、即時通行規制や応急措置など、緊急に何らかの安全措置を行う必要がある状態。

表-2 橋梁定期点検要領 における対策区分の判定区分

区分		判定の内容
健全性	対策区分	
I	A	損傷が認められないか、損傷が軽微で補修を行う必要がない。
	B	状況に応じて補修を行う必要がある。
II	C1	予防保全の観点から、速やかに補修等を行う必要がある。
	M	維持工事で対応する必要がある。
III	C2	橋梁構造の安全性の観点から、速やかに補修等を行う必要がある。
IV	E1	橋梁構造の安全性の観点から、緊急対応の必要がある。
	E2	その他、緊急対応の必要がある。
	S1	詳細調査の必要がある。
	S2	追跡調査の必要がある。

7. 管理橋梁の状態及び点検結果について

令和7年度

単位：橋

健全性区分		Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ	Ⅳ		計
対策区分		A	B	C1	M	C2	E1	E2	
市道種別	1級	0	7	8	2	2	0	0	19
	2級	0	4	2	1	1	0	0	8
	その他	1	33	15	3	2	0	0	54
区分計		1	44	25	6	5	0	0	81
計		45		31		5	0		81
割合		56%		38%		6%	0%		100%

(1) 修繕措置の着手状況

前回定期点検にて健全性Ⅲ・Ⅳと判定された橋梁は、長寿命化計画に基づき優先して対策を行う。

健全性	橋梁数	対策状況	橋梁名
Ⅳ	1	措置完了	屋慶名橋(屋慶名第三橋)（令和3年度）
Ⅲ	4	措置完了	無名橋6（令和3年度） 白浜橋（令和4年度） 西原1号橋（令和5年度） 東山原第二橋（令和5年度）
	2	事業着手済	ルーシー河橋（平成28年度～） 赤田地橋（令和4年度～）

8.点検結果一覧表

線 No	橋梁名・溝橋名	路線名	所在地	橋種	架設 年次	供用年 数	橋長 (m)	幅員 (m)	径間 数	点検 年度	橋梁等の 健全性の 診断	対策 区分 の評価	部材単位の診断(上部・橋梁 下部・溝橋)							対象部材	主な変状と部材
													主桁 頂板	横桁 側壁	床版 底版	下部構造		その他			
																翼壁	組手				
1	ひとまつ橋	栄野北1号線	栄野北	PC橋	1987	37	15.9	6.20	1	R02	Ⅱ	C1	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅱ(C1)	Ⅰ(B)	Ⅱ(C1)	下部構造	漏水・湧水 落書き	
2	ルーンー河橋	川崎ルーンー河線	川崎	RC橋	1967	57	17.0	5.00	2	R02	Ⅲ	C2	Ⅲ(C2)	Ⅲ(C2)	Ⅲ(C2)	Ⅲ(C2)	—	Ⅱ(M)	主桁、横桁 床版、下部構造	ひびわれ、うき、剥離・鉄筋露出、洗掘	
3	昆布1号橋	川崎山天線	昆布	溝橋	1977	47	2.9	11.75	1	R02	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	Ⅰ(A)	—	Ⅰ(B)	Ⅱ(M)	頂版	うき	
4	昆布2号橋	昆布1-20号線	昆布	RC橋	1983	41	3.9	4.00	1	R02	Ⅰ	B	Ⅰ(A)	—	—	Ⅰ(B)	—	Ⅱ(M)	下部構造	ひびわれ	
5	昆布3号橋	昆布1-23号線	昆布	RC橋	1983	41	3.8	4.00	1	R06	Ⅱ	C1	—	—	Ⅱ(C1)	Ⅰ(A)	Ⅰ(A)	Ⅱ(C1)	床版	剥離・鉄筋露出	
6	昆布4号橋	昆布1-24号線	昆布	RC橋	1983	41	3.8	4.00	1	R06	Ⅱ	C1	—	—	Ⅱ(C1)	Ⅰ(A)	Ⅰ(A)	Ⅱ(C1)	床版	剥離・鉄筋露出	
7	天願1号橋	天願地内線	天願	溝橋	1978	46	4.1	7.10	1	R02	Ⅱ	C1	Ⅱ(C1)	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	—	—	Ⅱ(M)	頂版	ひびわれ、うき、剥離・鉄筋露出	
8	赤田地東橋	天願1-28号線	天願	RC橋	1997	27	4.6	7.40	1	R02	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	—	—	—	—	Ⅱ(C1)	主桁	剥離・鉄筋露出	
9	赤田地橋	天願1-69号線	天願	鋼橋	1983	41	34.9	7.50	1	R02	Ⅲ	C2	Ⅱ(C1)	Ⅱ(C1)	Ⅰ(A)	Ⅰ(B)	Ⅲ(C2)	Ⅱ(C1)	支承部	腐食、防食機能の劣化	
10	津堅原橋	天願1-38号線	天願	PC橋	2002	22	35.0	10.36	1	R02	Ⅰ	B	Ⅱ(M)	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	Ⅱ(M)	Ⅰ(A)	Ⅱ(M)	主桁	うき	
11	宇堅1号橋	宇堅2-2号線	宇堅	溝橋	1997	27	2.5	8.50	1	R04	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	Ⅰ(A)	—	—	Ⅰ(B)	頂版	衝突跡	
12	アカムヤ橋	赤野港原線	赤野	PC橋	1984	40	21.6	7.70	1	R02	Ⅱ	C1	Ⅱ(C1)	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅱ(M)	Ⅰ(A)	Ⅱ(M)	主桁	ひびわれ	
13	ソーガ一橋	田場赤野線	赤野	RC橋	1980	44	13.8	4.00	1	R03	Ⅱ	C1	Ⅱ(C1)	Ⅰ(B)	Ⅱ(C1)	Ⅱ(M)	Ⅰ(A)	Ⅱ(M)	主桁、床版	鉄筋露出	
14	赤野中央橋	赤野2-72号線	赤野	RC橋	1982	42	14.7	4.00	1	R03	Ⅱ	C1	Ⅱ(C1)	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	Ⅱ(C1)	主桁	鉄筋露出	
15	田場6号橋	田場5-8号線	田場	溝橋	1994	30	2.3	5.30	1	R03	Ⅱ	M	Ⅰ(B)	Ⅱ(M)	Ⅰ(B)	—	—	Ⅱ(M)	側壁	鉄筋露出	
16	橋口橋	赤野2-68号線	赤野	RC橋	1989	35	11.9	5.00	1	R03	Ⅱ	M	Ⅱ(M)	—	Ⅱ(M)	Ⅱ(M)	Ⅰ(B)	Ⅱ(M)	主桁、床版、 下部構造	うき、欠損	
17	田場1号橋	田場安慶名線	田場	溝橋	1987	37	4.1	13.40	1	R03	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	—	Ⅱ(M)	Ⅱ(M)	頂版	うき	
18	田場2号橋	安慶名具志川線	田場	溝橋	1987	37	2.7	6.30	1	R03	Ⅱ	M	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	Ⅰ(A)	—	Ⅱ(M)	頂版	鉄筋露出	
19	河具橋	田場5-5号線	田場	溝橋	2004	20	4.5	6.60	1	R04	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	—	—	Ⅰ(B)	頂版・側壁	残骸・セバ掛け	
20	田場3号橋	安慶名5-25号線	田場	溝橋	1992	32	7.1	9.00	1	R03	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	Ⅱ(M)	側壁	ひびわれ	
21	田場4号橋	田場安慶名線	田場	溝橋	1987	37	3.6	13.00	1	R04	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	—	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	頂版・側壁・底版	ひびわれ・ 補修・補修材の損傷	
22	安慶名2号橋	安慶名具志川線	安慶名	溝橋	1987	37	5.4	9.70	1	R04	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	—	Ⅰ(B)	Ⅱ(M)	頂版、側壁	うき	
23	平良川1号橋	平良川1-11号線	平良川	RC橋	1997	27	20.0	7.60	1	R03	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	—	—	Ⅰ(B)	—	Ⅰ(A)	床版	ひびわれ	
24	西原1号橋	安慶名西原線	西原	RC橋	1981	43	3.5	6.70	1	R03	Ⅲ	C2	Ⅲ(C2)	—	—	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	Ⅰ(B)	頂版	うき、剥離・鉄筋露出	
25	兼段段1号橋	兼段段3-5号線	兼段段	溝橋	1990	34	2.0	7.90	1	R04	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	Ⅰ(A)	—	Ⅰ(A)	Ⅰ(B)	頂版	うき	
26	兼段段橋	兼段段登川線	兼段段	RC橋	1980	44	11.7	8.00	1	R03	Ⅱ	C1	Ⅱ(C1)	Ⅱ(C1)	Ⅱ(C1)	Ⅱ(C1)	—	Ⅱ(M)	主桁、横桁 床版、下部構造	ひびわれ、うき、剥離・鉄筋露出	
27	兼段段5号橋	兼段段4-14号線	兼段段	溝橋	1983	41	6.8	12.50	1	R03	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	Ⅰ(A)	Ⅰ(A)	Ⅰ(B)	頂版	欠損	
28	兼段段6号橋	兼段段4-10号線	兼段段	溝橋	1983	41	5.4	5.10	1	R03	Ⅱ	C1	Ⅱ(C1)	Ⅱ(M)	Ⅱ(M)	—	—	Ⅱ(M)	頂版	ひびわれ	
29	兼段段4号橋	兼段段4-8号線	兼段段	溝橋	1983	41	4.3	6.60	1	R03	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	—	—	Ⅱ(M)	頂版、側壁	ひびわれ、 鉄筋露出	
30	兼段段3号橋	兼段段尻川線	兼段段	溝橋	1983	41	3.5	5.00	1	R03	Ⅱ	M	Ⅱ(M)	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	—	—	Ⅱ(M)	頂版、側壁	ひびわれ	
31	兼段段2号橋	兼段段4-55号線	兼段段	溝橋	1992	32	6.2	7.70	1	R03	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	—	Ⅰ(B)	Ⅱ(M)	側壁	遊離石灰、 漏水	
32	前原1号橋	前原6-51号線	前原	溝橋	1994	30	3.3	5.10	1	R03	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	—	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	頂版、側壁	うき	
33	前原2号橋	前原6-52号線	前原	溝橋	1976	48	3.0	5.60	1	R03	Ⅰ	B	Ⅰ(A)	Ⅰ(A)	Ⅰ(B)	—	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	頂版、側壁	うき	
34	前原4号橋	前原6-52号線	前原	溝橋	1992	32	4.2	9.00	1	R04	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	—	—	Ⅱ(M)	頂版、側壁	うき、ひびわれ、鉄筋露出	
35	前原5号橋	前原高江洲線	前原	RC橋	1981	43	5.9	5.10	1	R03	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	—	—	Ⅰ(A)	—	Ⅱ(M)	床版	豆板	
36	前原6号橋	前原6-52号線	前原	溝橋	1992	32	5.3	5.40	1	R04	Ⅰ	B	Ⅰ(A)	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	—	—	Ⅱ(M)	側壁	うき	
37	豊原1号橋	豊原西線	豊原	溝橋	1976	48	4.1	15.00	1	R04	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	Ⅰ(B)	—	—	Ⅱ(M)	頂版	ひびわれ	
38	豊原2号橋	豊原6-66号線	豊原	溝橋	1987	37	2.0	10.60	1	R04	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	Ⅰ(A)	—	Ⅰ(B)	Ⅱ(C1)	頂版	残骸	
39	豊原3号橋	塩原6-71号線	豊原	溝橋	1978	46	2.4	8.30	1	R04	Ⅱ	C1	Ⅱ(C1)	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	—	—	Ⅰ(B)	側壁	うき	
40	塩原1号橋	上江洲塩原線	塩原	溝橋	1984	40	2.6	4.20	1	R04	Ⅰ	B	Ⅰ(A)	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	—	—	Ⅰ(B)	側壁	うき、セバ掛け	
41	塩原2号橋	塩原6-71号線	塩原	溝橋	1975	49	2.0	9.10	1	R04	Ⅱ	M	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅱ(M)	—	—	Ⅰ(B)	底版	土砂堆積	
42	川田2号橋	川田6-72号線	川田	溝橋	1997	27	2.2	8.00	1	R05	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	Ⅰ(B)	—	—	Ⅰ(A)	頂版	欠損	
43	無名橋1	平良川赤道線	兼段段	溝橋	1985	39	3.2	12.70	1	R03	Ⅱ	C1	S1	S1	S1	—	Ⅰ(B)	Ⅱ(M)	頂版、側壁	ひびわれ	
44	港原橋	宇堅2-88号線	赤野	PC橋	1989	35	62.1	7.70	2	R02	Ⅰ	B	Ⅱ(M)	Ⅱ(M)	Ⅰ(B)	Ⅱ(M)	Ⅰ(B)	Ⅱ(M)	床版	うき	
45	無名橋2	安慶名3-19号線	安慶名	溝橋	2002	22	5.0	4.60	1	R03	Ⅰ	B	Ⅰ(A)	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	—	—	Ⅱ(M)	なし	なし	
46	無名橋3	高江洲6-105号線	高江洲	RC橋	2006	18	2.7	9.00	1	R05	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	—	—	Ⅰ(B)	—	Ⅰ(B)	主桁	剥離・鉄筋露出	
47	無名橋4	高江洲6-116号線	高江洲	RC橋	1990	34	2.6	13.00	1	R05	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	—	—	Ⅰ(B)	—	Ⅰ(B)	主桁	欠損	
48	宇堅跨道橋	宇堅2-3号線	宇堅	PC橋	1997	27	20.9	6.20	1	R02	Ⅰ	B	Ⅰ(A)	—	Ⅰ(B)	Ⅱ(M)	Ⅰ(A)	Ⅱ(M)	床版	防食機能の劣化	
49	東山原第三橋	新聞地1号線	石川東山	鋼橋	1974	50	37.6	9.00	1	R06	Ⅱ	C1	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅱ(C1)	Ⅱ(C1)	Ⅱ(C1)	Ⅱ(M)	床版、下部構造、 支承部	剥離・鉄筋露出、 うき、 遊離石灰、 ひびわれ	
50	世米津橋	石川3号線	石川	RC橋	2002	22	32.0	16.80	2	R02	Ⅱ	C1	Ⅱ(C1)	—	Ⅰ(A)	Ⅱ(M)	Ⅰ(A)	Ⅰ(B)	主桁	ひびわれ	
51	栄橋	石川29号線	石川	PC橋	1986	38	20.1	10.75	1	R02	Ⅰ	B	Ⅱ(M)	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅱ(M)	Ⅰ(A)	Ⅱ(M)	主桁、下部構造	ひびわれ	
52	白溝橋	石川34号線	石川白浜	溝橋	1990	34	7.2	11.90	1	R03	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	—	Ⅰ(B)	頂版、側壁	うき、遊離石灰	
53	石川橋	石川15号線	石川	PC橋	1988	36	41.9	6.20	2	R02	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	Ⅰ(A)	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅱ(C1)	Ⅱ(M)	主桁	湧水・遊離石灰	
54	伊波橋	伊波1号線	石川伊波	PC橋	1986	38	48.9	9.00	1	R06	Ⅱ	C1	Ⅱ(C1)	—	Ⅰ(A)	Ⅱ(C1)	Ⅰ(A)	Ⅱ(C1)	主桁、下部構造	剥離・鉄筋露出、ひびわれ	
55	夫婦橋	石川31号線	石川	PC橋	1985	39	21.0	5.20	1	R02	Ⅱ	C1	Ⅱ(C1)	—	Ⅰ(A)	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅱ(M)	主桁	ひびわれ	
56	白浜橋	石川55号線	石川白浜	RC橋	1980	44	7.9	6.60	1	R03	Ⅲ	C2	Ⅲ(C2)	—	—	Ⅱ(C1)	—	Ⅱ(M)	床版	漏水・遊離石灰	
57	東山原第一橋	石川65号線	石川東山	鋼橋	1974	50	31.0	8.50	1	R04	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	—	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)	主桁	鉄筋露出、うき	
58	籠郷橋	石川65号線	石川	PC橋	1999	25	70.0	13.00	3	R02	Ⅱ	C1	Ⅰ(B)	—	Ⅰ(B)	Ⅱ(C1)	Ⅰ(A)	Ⅱ(M)	下部構造	ひびわれ	
59	ボックスカルバート1	東恩納23号線	石川東恩納	溝橋	1994	30	2.6	9.10	1	R05	Ⅰ	B	Ⅰ(B)	Ⅰ(B)							

9. 修繕優先度の設定

橋梁を効率的に維持管理していくため、対策を行う優先順位をルール化しました。優先順位は、各橋梁の「健全性」と「重要性」から判断します。

(1) 橋梁の健全性

健全度の評価は点検結果をもとに、橋梁に求められる「耐荷性」「災害抵抗性」「走行安全性」で評価をします。

評価が同等な場合は、重要度の高いものを優先します。

(2) 橋梁の重要性

重要性は、橋梁の諸元や架設環境、交差条件、路線の利用状況などから橋梁毎に評価をします。

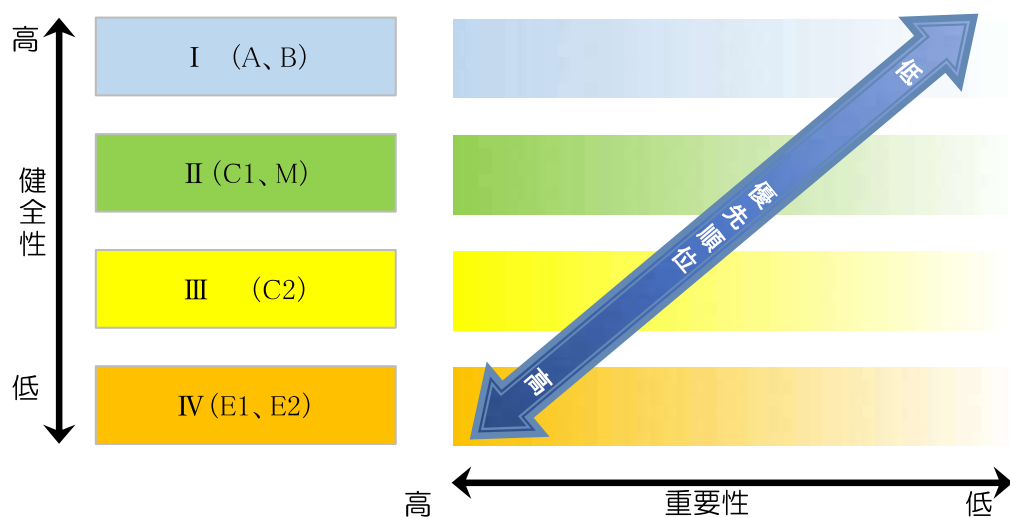
(3) 修繕優先度の設定

修繕優先度は橋梁の損傷度評価点（損傷度＝100－健全度）と重要度評価点の合計で評価します。

なお、合計する場合は係数を設定しており損傷度に重みを置いて評価します。

（損傷度：重要度＝6（ α ）：4（ β ））

$$\text{修繕優先度} = \alpha \times (100 - \text{健全度}) + \beta \times \text{重要度}$$



健全性と重要性を考慮した優先順位

(4) 目標

橋梁の維持管理を効率的に行うことを目標に、修繕優先度の高い橋梁からから措置を行い、予防保全段階、健全へと移行していくことを目標とします。

